

2019年度事業報告

(平成 2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人ブロードバンド・アソシエーション(BA)

1. 事業の成果

2019 年度は、BA 設立 16 年目、デジタル変革/データ新世紀時代を見据え、講演会、サロン、研究会の活動を継続するとともに、次なる発展に向け、「ローカル5G 普及研究会」を設立しました。

2004 年度から開始した「ブロードバンド特別講演会」は、BA 最大のイベントとして、今年度も 2 回(通算 32 回)開催しました。5 月には、「メディア×データ」でビジネスを拓く!」のテーマで、総務省の山田真貴子 情報流通行政局長を招いて開催し、好評でした(大変有意義:51%、有意義:49%)。また、12 月には、各界の著名な講師をお招きし、「5G and Beyond 2020~デジタルトランスフォーメーション時代へ~」のテーマで開催しました。

2004 年度から開始した「BAエグゼクティブサロンは、各界の有識者をお招きし、勉強会+立食パーティーを今期 6 回(通算 135 回)、2007 年度から開始した「BA クリエイターズサロン」は、今期2回(通算 36 回)開催しました。また、2008 年度から開始した「映像(配信)ビジネス研究会」は、今期 8 回(通算 113 回)開催しました。

BA設立10周年を機に、2013年に設立した「スマートプラットフォーム・フォーラム(SPF)は、5月に幅広い参官学の有識者をお招きし、「健康・医療分野の課題をどう解決するか?~ICT活用を中心に~」のテーマで「第9回公開フォーラム」を開催し、大好評でした(大変有意義:68%、有意義:32%)。これを機に、健康・医療分野を今後どう取組むか調査検討を進め、次なる活動として、高齢者特に認知症高齢者のICTによる生活支援に向けた取組を開始することにしました。

従来のキャリア型で無い5Gの局所的利用の「ローカル5G」は、BAが次の発展に向けて取り組むべき課題と考えられます。そこで、総務省のご意見をお聴きし、関係団体と調整し、「ローカル5G 普及研究会(委員長:中尾彰宏(東京大学教授))」の設立を視野に、10月に「ローカル5G」のユーザ視点からの推進について“をテーマとする「第10回 SPF 公開フォーラム」を開催し、大盛況でした(会場参加:245名、交流会参加:75名)。その後、パネル討論に登壇したパネリストを中心に、本研究会の推進に積極的なメンバーが集まり、関係団体と連携し、中立的な SPF 傘下の研究会として3月4日に設立しました。

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費(千円)
ブロードバンドを使った活動をしている産・官・学・民交流の場の運営1	「ブロードバンド特別講演会」	5月10日	明治記念館	17名	参加者278名 ネット配信:557名	2,416
	<第31回(「メディア×データ」でビジネスを拓く!)> 基調講演:山田真貴子(総務省 情報流通行政局長)、講演Ⅰ:尾関光司(ビデオリサーチ 常務取締役)、講演Ⅱ:田中祐介氏(ヤフー 執行役員・GYAO 代表取締役社長)、講演Ⅲ:鈴木禎久(電通デジタル 代表取締役社長)、<パネルディスカッション>モデレータ:鈴木祐司(次世代メディア研究所 代表)、パネリスト:尾関光司、田中祐介、鈴木禎久					

	<第32回(5G and Beyond 2020～デジタルトランスフォーメーション時代へ～)> 特別講演:鈴木茂樹(総務省 総務事務次官)、代理:荻原直彦(総合通信基盤局 電波部 移動通信課長: Society5.0を支える5Gの発展に向けて)、基調講演:栗山浩樹(NTT 常務取締役(新ビジネス推進室長・2020 担当): Beyond 2020 のソサイエティ・ビジネス・イノベーション)、講演 I : 西原政利(ノキアソリューションズ & ネットワークス 執行役員: デジタルトランスフォーメーションを支える 5G 技術と新たな社会像)、講演 II : 中村伊知哉(慶応義塾大学 教授: Society5.0 × 5G)、パネルディスカッション(5G・東京五輪が促すデジタル変革のパラダイム)、モデレータ: 関口和一(MM 総研 代表取締役所長、元日経論説委員)、パネリスト: 小林 央(栗山浩樹 代理、NTT 新ビジネス推進室 統括部長)、西原政利、中村伊知哉	12月11日	明治記念館	18名	参加者 264名 ネット配信: 726名		
交流会・研究会・セミナーの開催1	「BA エグゼクティブサロン(座長: 青山友紀 理事長)」	4月18日	NTTデータ本社	36名 (延べ)	参加者 45名	1,611	
	第130回: 元橋圭哉(BA 理事、NHK エンタプライズ 上 席執行役員: アメリカ・テレビメディアの地殻変動)	7月18日			参加者 41名		
	第131回: 川村龍太郎(BA 顧問、NTT サービスイノベー ション総合研究所 所長: 人に関するデジタル化の時代と AI 技術について)	9月18日			参加者 25名		
	第132回: 花谷昌弘(NTT データ 金融事業推進部 デジタ ル戦略推進部 部長: 情報銀行の今と将来)	10月17日			参加者 35名		
	第133回: 船越健志(NTT ドコモ 法人営業本部 5G・ IoT ソリューション推進室長: ドコモが目指す5G時代のビ ジネス協創～さまざまなパートナーと創る未来～)	11月21日			参加者 28名		
	第134回: 間下直晃(ブイキューブ 代表取締役社長 CEO: 働き方改革によるサテライトオフィス利用とドロー ンの今後の活用)	1月16日			参加者 31名		
	第135回: 黒水則顯(WOWOW 取締役副社長 兼 WOWOW コミュニケーションズ取締役会長: WOWOW が描 く今後の放送・映像配信ビジネス)	7月8日			8名 (延べ)		参加者 39名
	「BA クリエイターズサロン(座長: 為ヶ谷秀一 顧問)」	10月9日					参加者 40名
第35回: 杉沼浩司(日本大学生産工学部講師(非常勤) / 映像新聞 論説委員: 5G とコンテンツ制作)	7月8日	VIPO ホール	8名 (延べ)	参加者 39名	776		
第36回: 畠山大有(日本マイクロソフト シニア クラウド ソリューション アーキテクト: デジタル時代に クリエータ の皆さんが知っておきたい AI と付き合うためのコツ)	10月9日			参加者 40名			
交流会・研究会・セミナーの開催2	「映像ビジネス研究会(座長: 境真良)」	4月22日	WOWO W 会議 室	24名 (延べ)	参加者 16名	776	
	第106回: 塚本幹夫(ウイズ・メディア取締役: OTT と地上 波不思議な補完関係 NAB Show 2019 報告))	5月22日			参加者 24名		
	第107回: 西田宗千佳(フリージャーナリスト「お得」見 放題)を超えるサブスクリプション)	6月25日			参加者 25名		
	第108回: 岩貞和明(J リーグメディアプロモーション プ ロダクション事業部 映像事業部長: プレミアム・プラット 大型放映権契約によって変化した映像ビジネス)	8月27日			参加者 11名		
	第109回: 小柴恵一(東京オリンピック・パラリンピック競 技大会組織委員会 イノベーション推進室 A&V 企画担 当部長: 映像・情報分野におけるイノベーション取り組 み)	9月17日			参加者 28名		
第110回: 岸本拓磨(日本アイ・ビー・エム インタラクティ ブエクスペリエンス クリエイティブ&デザイン トータルメ ディアプロデューサー: IBM の映像ビジネス×次世代テク ノロジーのチャレンジについて)							

	第 111 回:鈴木祐司(次世代メディア研究所 代表 メディア・アナリスト:視聴データ戦国時代が示唆するTV界の地殻変動)	10月8日			参加者 11名	
	第 112 回:三浦文夫(関西大学 教授、一般社団法人アーティストコモンズ 理事長:アーティストコモンズのめざすもの)	11月29日			参加者 19名	
	第 113 回:数土直志(ジャーナリスト、日本経済大学大学院エンターテインメントビジネス研究所特任教授:アニメ業界の動向 映画・配信の新戦略と動向)	1月28日			参加者 29名	
ブロードバンドを使った活動をしている産・官・学・民交流の場の運営2	「SPF 公開フォーラム(委員長:森川博之)」	4月9日	東京大学本郷台キャンパス	10名	参加者 会場: 142名 交流会: 49名 ネット配信:89名	1,159
	第9回(健康・医療分野の課題をどう解決するか?~ICT活用を中心に~) 特別講演:江崎禎英(経済産業省 商務・サービスグループ 政策統括官調整官:健康・医療分野におけるデータ活用の在り方)、基調講演Ⅰ:松本純夫(東京医療センター名誉院長:4K・8K テレビ時代を迎えるネット診療への期待と課題)、基調講演Ⅱ:落合慈之(NTT 東日本関東名誉院長:医療におけるトレーサビリティの確立を目指して)、橋田浩一(東京大学大学院教授:ヘルスケアのためのパーソナルデータエコシステム)、川淵孝一(東京医科歯科大学大学院 教授:規制改革推進会議から見た一貫通貫の医療)、佐藤賢治(新潟県厚生連佐渡総合病院 院長:超高齢化社会~佐渡島~における社会保障提供の現実と対策)、パネルディスカッション、モデレータ:森川博之委員長、パネリスト:江崎禎英、松本純夫、落合慈之、橋田浩一、川淵孝一、佐藤賢治					
	第10回(「ローカル5G」のユーザ視点からの推進について) 特別講演:谷脇康彦(総務省 総合通信基盤局長:データ主導社会の実現に向けて)、講演Ⅰ:荻原直彦(総務省 電波部 移動通信課長:5Gの普及展開に向けた取り組み)、講演Ⅱ:中尾彰宏 研究会委員長(東京大学大学院 情報学環 教授:ローカル5Gの可能性と情報通信の民主化への期待)、パネルディスカッション(ローカル5Gの利用分野と普及推進の課題~Local 5G・自営網技術の情報通信民主化がもたらす革命~)、モデレータ:中尾彰宏 研究会委員長 パネリスト:関口和一(MM 総研 代表取締役所長)、元日経論説委員:5G 戦略で問われる日本の競争力)、岩浪剛太(インフォシティ 代表取締役:ローカル 5G の利用シーンイメージ)、石津健太郎(NICT 経営企画部 企画戦略室 プランニングマネージャー:ローカル 5G の本質的な役割と利用促進に向けた課題)、藤本幸一郎(日本電気 新事業推進本部 主席主幹 :ローカル 5G 導入のインパクトと実現に向けた課題)、伊藤陽彦(NTT 東日本 ネットワーク事業推進本部 高度化推進部長:NTT 東日本におけるローカル 5G の展望と課題)、吉本明平(全国地域情報化推進協会 企画担当部長:地域課題解決の手段としてローカル 5G が選ばれるには)、渡部宗一(イーヒルズ 取締役:ユーザーがこれからの通信に期待するもの)	10月21日	東京大学本郷台キャンパス	9名	参加者 会場: 245名 交流会: 76名 ネット配信:817名	
2	「健康・医療分科会(主査:坪井俊明 事務局次長)」 従来から参加を検討していた村井先生主催の「ヘルスケアデータ社会システムコンソーシアム」については、有料会員での参加を示されたため、入会を断念した。第9回公開フォーラムを契機に、この分野を今後どう取組むかを探るため、実施報告書を下記の講師、関係団体、関係者に説明・意見交換した。橋田浩一先生(6/3)、落					

流会・研究会・セミナーの開催3	合慈之先生(6/12)、川渕孝一先生(6/12)、松本純夫先生(7/8)、濱宏一郎氏(NTT データ(7/11))、森川博之委員長(7/12)、佐藤賢治先生(8/2)、出井京子氏(NTTドコモ(9/4))、高瀬義昌先生(ITヘルスケア学会(9/4))。また、オンライン診療研究会(7/29)、XHEALTH オンライン診療ワークショップ(10/9)等に参加し、オンライン診療、地域医療連携など今後取り組むべきヘルスケアのテーマを模索したが、オンライン診療は制度の壁、地域医療連携は利用メリットと費用負担の壁のため、難しいと判断した。 次年度のテーマとして、高齢者特に認知症高齢者のICTによる生活支援のニーズが今後拡大すると共に、AI技術の進歩により可能性が高まると考えられ、東大江崎教授(IoT)・秋山弘子教授(ジェロントロジー)を中心として総務省への申請を契機に研究会の発足を企画することにした。	4月 ～ 3月	NTT-T X等	2名	分科会メンバー 6名	1,019
	SPF傘下の「ローカル5G普及研究会」の設立 「ローカル5G」は、BA/SPFが今後取り組む主要課題と考えられ、総務省のご意見を伺い、関係団体と意見交換し、「ローカル5G普及研究会(委員長:中尾彰宏(東京大学教授))」の設立を視野に、10月に「ローカル5G」のユーザ視点からの推進について“をテーマとする「第10回SPF公開フォーラム」を、産官学の著名な講師をお招きして開催した。 その後、パネル討論に登壇したパネリストを中心に、本研究会の推進に積極的なメンバーが集まり、関係団体と連携し、中立的なSPF傘下の研究会として、「ローカル5G普及研究会」を3月4日に設立した。 その後、対外的に公表する設立趣意書、設立目的、活動内容、運営・実施推進体制等の資料をリファインし、HPに掲載した。本研究会の設立目的は下記。本研究会は、ローカル5G普及に必要な環境整備(プラットフォーム整備)の課題解決に向け、様々なステークホルダーが叡智を結集し、実際のものづくりとパートナー形成、および、ユースケースの探求を通じてプラットフォームの成功モデルケースを確立することを目的とする。	12月 27日 1月 31日 2月 5日	東京大 学 東京大 学 東京大 学	2名 2名 2名	関係者 16名 関係者 7名 関係者 22名	
	「SPFサービス・WEB分科会(主査:木浦卓治)」 W3C Agriculture CGの委員長である木浦卓治氏(農研機構)が「サービス・WEB分科会」の主査を兼務し農業分野のWoTの国際標準化に向けた活動を、海外の動向、農業分野の標準化を検討している「農業データ連携基盤(データプラットフォーム)」、AgGateway等の動向をウォッチし、農業WoTについては、W3C WoTの農業分野での推進を行うこととした。	4月 ～ 3月	メー リン グリ スト	2名	分科会メンバー: 16名 W3CAgriculture CG 登録者: 61名	

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
I	実施しなかった					

(以上)